



株式会社フコク(東証プライム:5185)

2026年5月26日

---

# 決算説明会

2026年3月期

**Yes, We Do!**

1. 決算のポイント
2. 2026年3月期実績
3. 2027年3月期業績予想
4. セグメント別・地域別の状況
5. 株主還元
6. 事業の取り組みの進捗
7. 次期中期経営計画に向けて

# 1. 決算のポイント

---

# 1. 決算のポイント

## 2026年3月期実績

**売上高/増収** : 新製品や中国でのワイパーが好調な機能品事業を始め、ライフサイエンス事業、ホース事業が堅調に推移

**営業利益/減益** : 原材料費の高止まりや労務費上昇等を、合理化や変動対応等で吸収しきれず

## 2027年3月期予想

### 売上高/減収、営業利益・経常利益/減益、当期純利益/増益

景気回復が続く一方、米国通商政策の動向や物価上昇の継続による景気下振れリスク、地政学リスクの高まりやエネルギー・原材料価格の変動リスク等を想定、中東情勢の影響を一定程度織り込む。収益拡大と資本効率向上を最優先とし、その実現に向け事業運営を強化

## 配当

2026年3月期の期末配当金は42.5円。中間配当金42.5円と合わせた年間配当金は85円

2027年3月期の年間配当金予想は100円 **(増配 : 前期比 + 15円)** を計画

## 2. 2026年3月期実績

---

## 2. 2026年3月期実績

### 業績概要（連結）

（単位：百万円）

	2025年	2026年	前年増減額	前年増減率
	3月期 通期 実績	3月期 通期 実績		
売上高	89,657	<b>90,025</b>	368	<b>+0.4%</b>
営業利益 (売上高対営業利益率)	4,721 (5.3%)	<b>3,806</b> (4.2%)	△ 915 (△1.1pp)	<b>△19.3%</b>
経常利益 (売上高対経常利益率)	4,569 (5.1%)	<b>3,864</b> (4.3%)	△ 705 (△0.8pp)	<b>△15.4%</b>
当期純利益 (売上高対当期純利益率)	2,931 (3.3%)	<b>1,144</b> (1.3%)	△ 1,787 (△2.0pp)	<b>△60.9%</b>

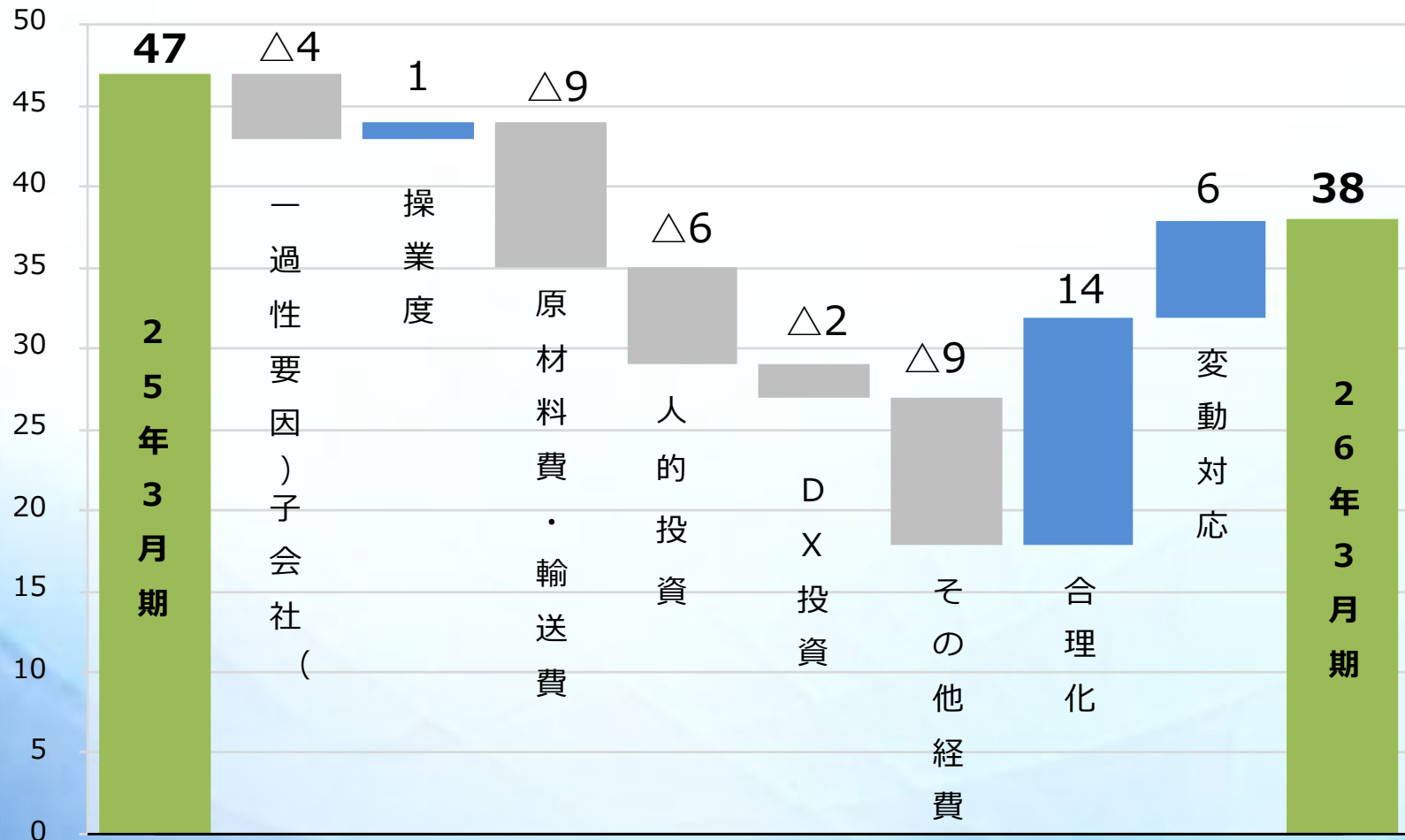
※pp=パーセンテージポイント

**原材料費高止まり等の影響を合理化・売価反映等で吸収しきれず減益  
当期純利益の減少は防振事業における9.1億円の減損損失の影響**

## 2. 2026年3月期実績

差異要因\_連結営業利益（前年比）

（単位：億円）



※25年3月期の利益には一過性要因+4億円を含む

## 2. 2026年3月期

### 財政状態、キャッシュ・フロー概要（連結）

（単位：百万円）

PL	2025年3月期 実績	2026年3月期 実績	前年増減額
売上高	89,657	90,025	368
営業利益	4,721	3,806	△ 915
経常利益	4,569	3,864	△ 705
当期純利益	2,931	1,144	△ 1,787

BS	2025年3月期 実績	2026年3月期 実績	前年増減額
流動資産計	45,597	48,043	2,446
固定資産計	33,804	33,643	△ 161
資産計	79,402	81,686	2,284
負債計	33,465	37,881	4,416
自己資本	43,274	40,869	△ 2,405
純資産計	45,936	43,805	△ 2,131
負債・純資産計	79,402	81,686	2,284

CF	2025年3月期 実績	2026年3月期 実績	前年増減額
営業活動によるCF	6,631	8,044	1,413
投資活動によるCF	△ 5,835	△ 5,384	451
財務活動によるCF	△ 640	△ 814	△ 174
フリー・キャッシュ・フロー	796	2,660	1,864

■ 売上高の増加：  
機能品・ライフサイエンス・  
ホース事業の堅調な推移

■ 当期純利益の減少：  
防振事業における減損処理

■ 流動資産の増加：  
売上増加と借入金増加に伴う  
現金及び預金の増加

■ 負債の増加：借入金の増加

■ 営業活動によるCFの増加  
前年度の月末休日と  
取適法（旧下請法）対応に伴う、  
支払サイト短縮の影響が減少

### 3. 2027年3月期業績予想

---

### 3. 2027年3月期業績予想

#### 業績予想（連結）

（単位：百万円）

	2026年	2027年	前年増減額	前年増減率
	3月期	3月期		
	通期 実績	通期 予想		
売上高	90,025	<b>85,000</b>	△ 5,025	△ <b>5.6%</b>
営業利益 (売上高対営業利益率)	3,806 (4.2%)	<b>3,300</b> (3.9%)	△ 506 (△0.3pp)	△ <b>13.2%</b>
経常利益 (売上高対経常利益率)	3,864 (4.3%)	<b>3,300</b> (3.9%)	△ 564 (△0.4pp)	△ <b>14.5%</b>
当期純利益 (売上高対当期純利益率)	1,144 (1.3%)	<b>2,300</b> (2.7%)	1,156 (+1.4pp)	<b>+101.0%</b>

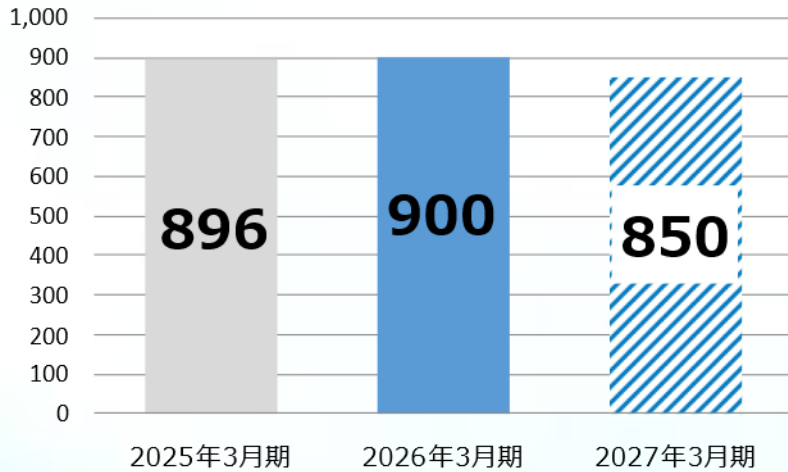
※pp=パーセンテージポイント

中東情勢等の影響を織り込み減収、営業利益・経常利益は減益、当期純利益は増益を計画

### 3. 2027年3月期業績予想

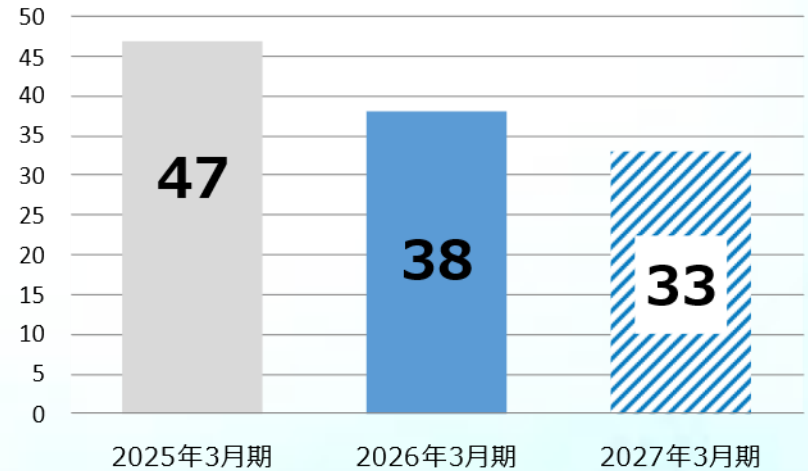
#### 予想推移 (連結)

##### 売上高

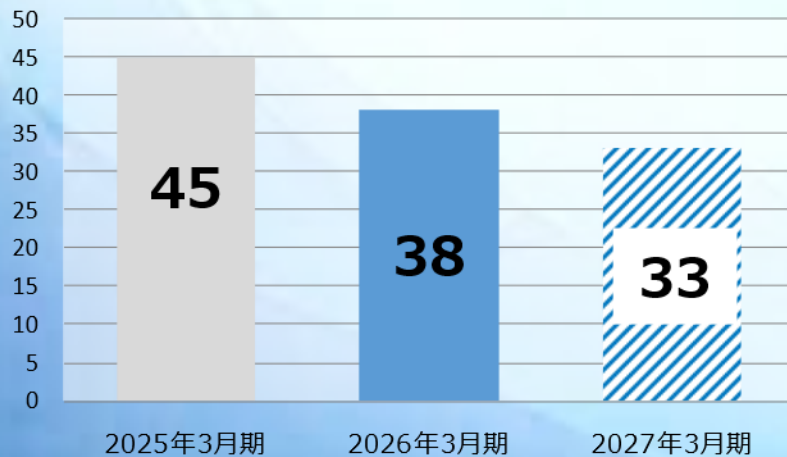


##### 営業利益

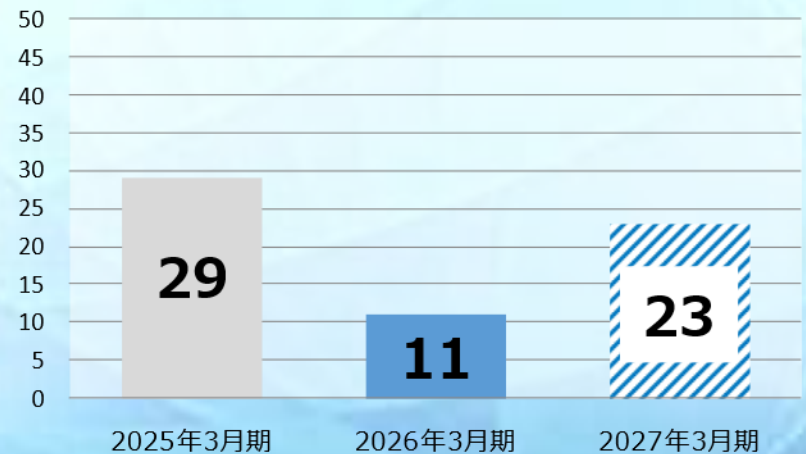
(単位：億円)



##### 経常利益



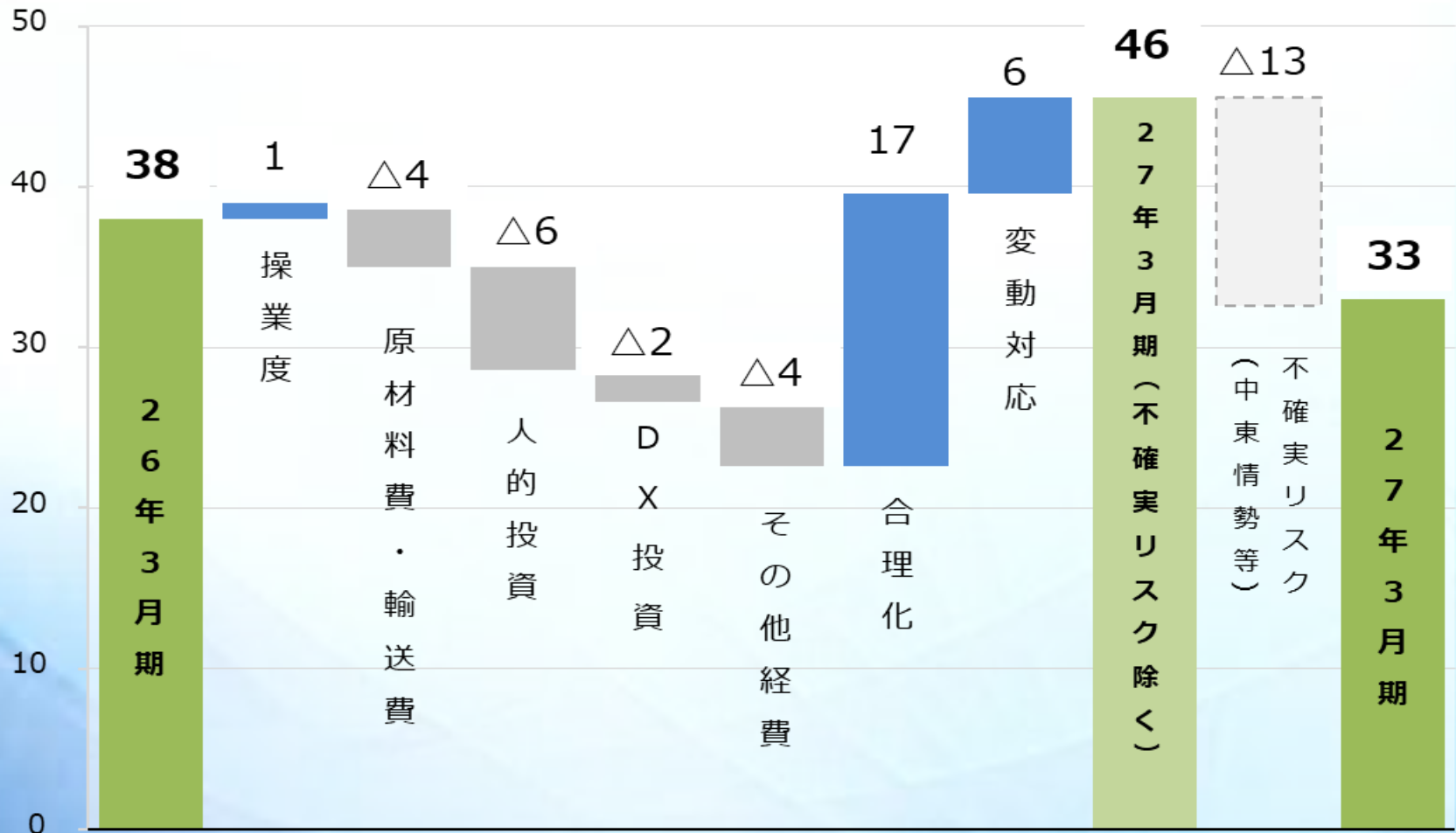
##### 当期純利益



### 3. 2027年3月期業績予想

差異要因\_連結営業利益 (前年比)

(単位: 億円)



## 4. セグメント別・地域別の状況

---

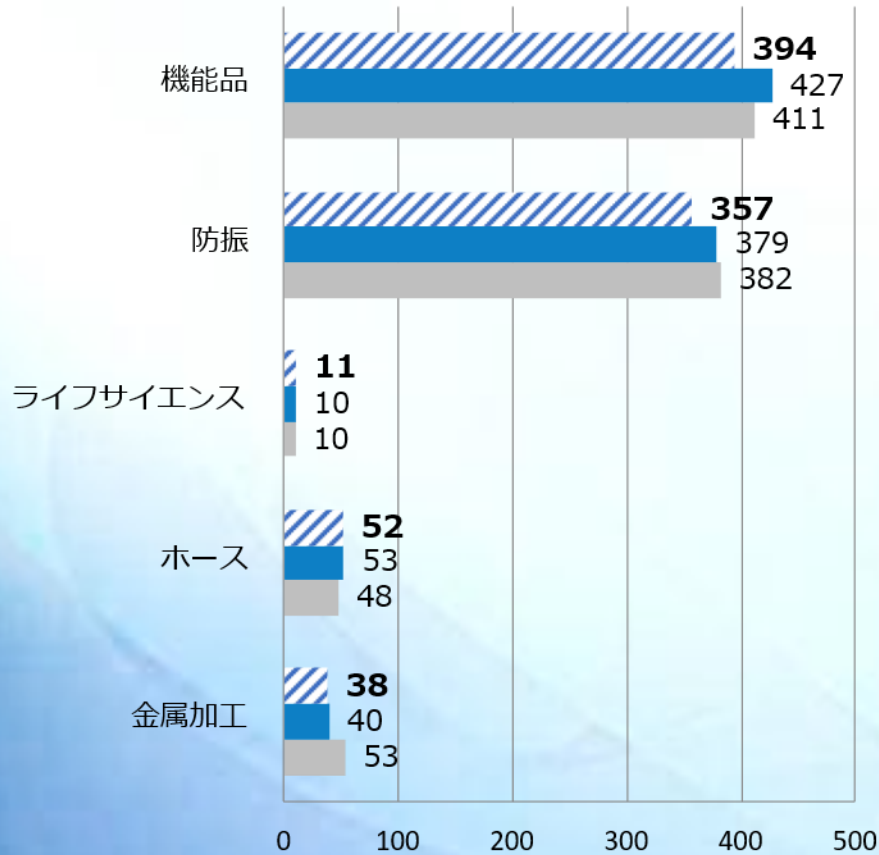
# 4. セグメント別・地域別の状況

## セグメント別

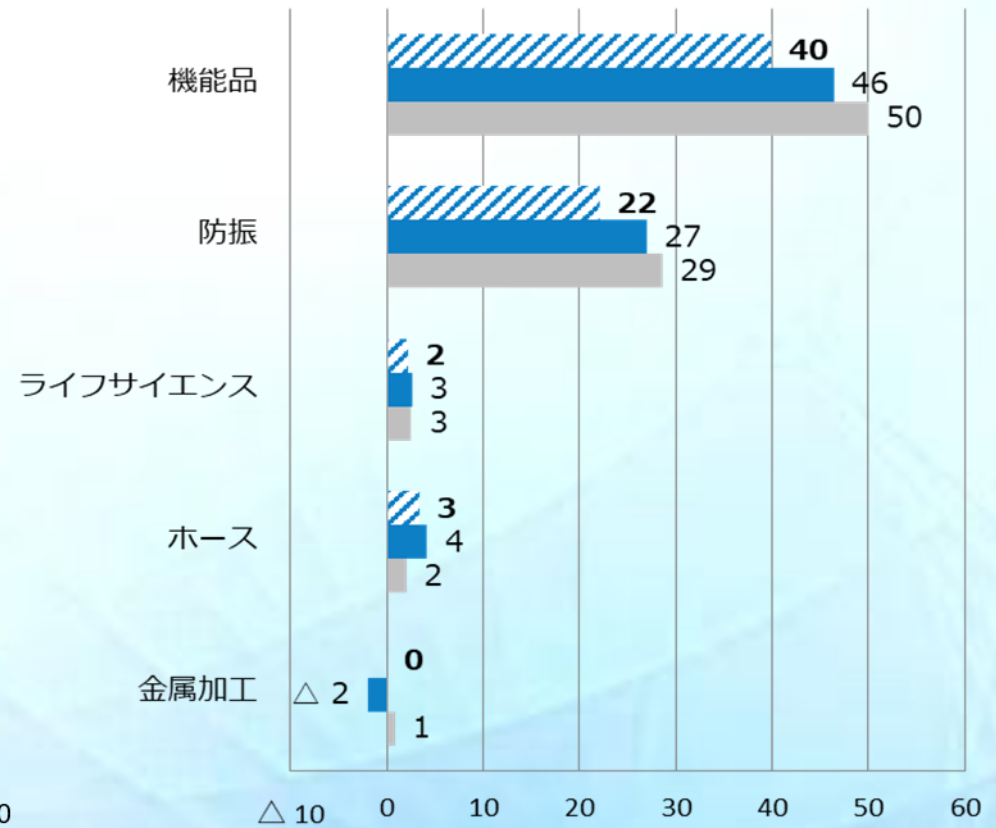
2027年3月期  
 2026年3月期  
 2025年3月期

※ 連結調整考慮前  
 (単位：億円)

### 売上高



### 営業利益



**26年3月期は主要事業で減益、27年3月期は不確実リスク等により減益**

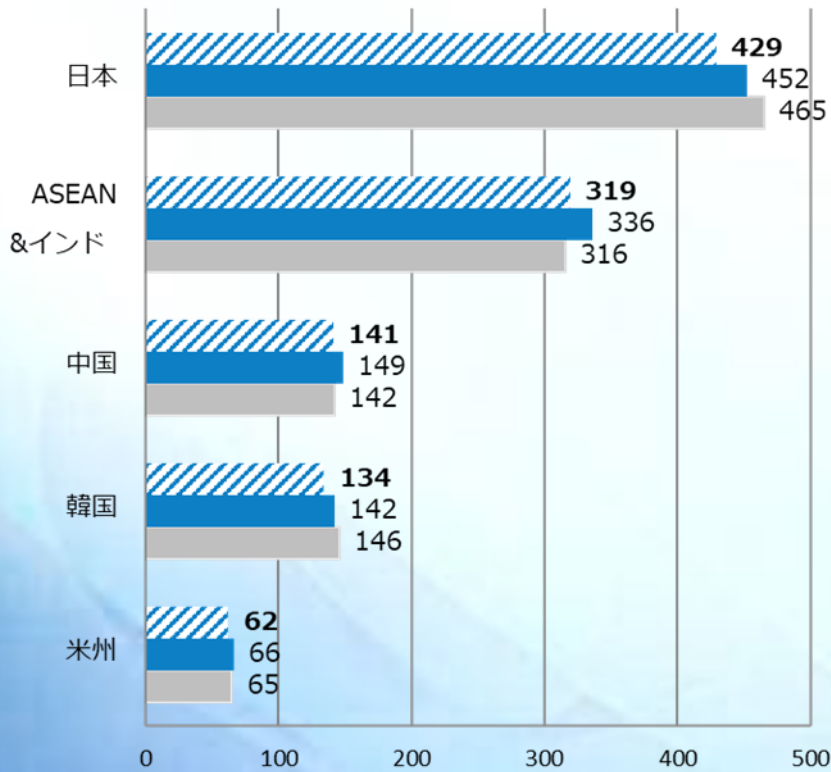
# 4. セグメント別・地域別の状況

## 地域別

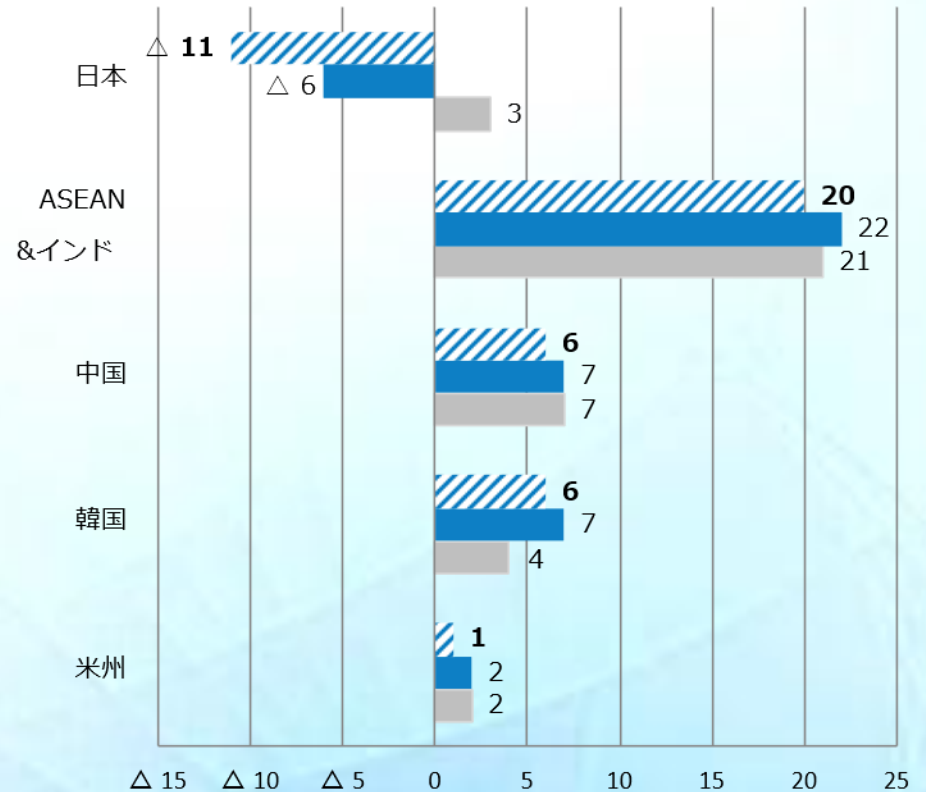
▨ 2027年3月期  
■ 2026年3月期  
■ 2025年3月期

※ 連結調整考慮前  
(単位：億円)

売上高



営業利益



**26年3月期はASEAN&インド、中国、米州で増益 27年3月期は不確実リスク等で減益**

## 5. 株主還元

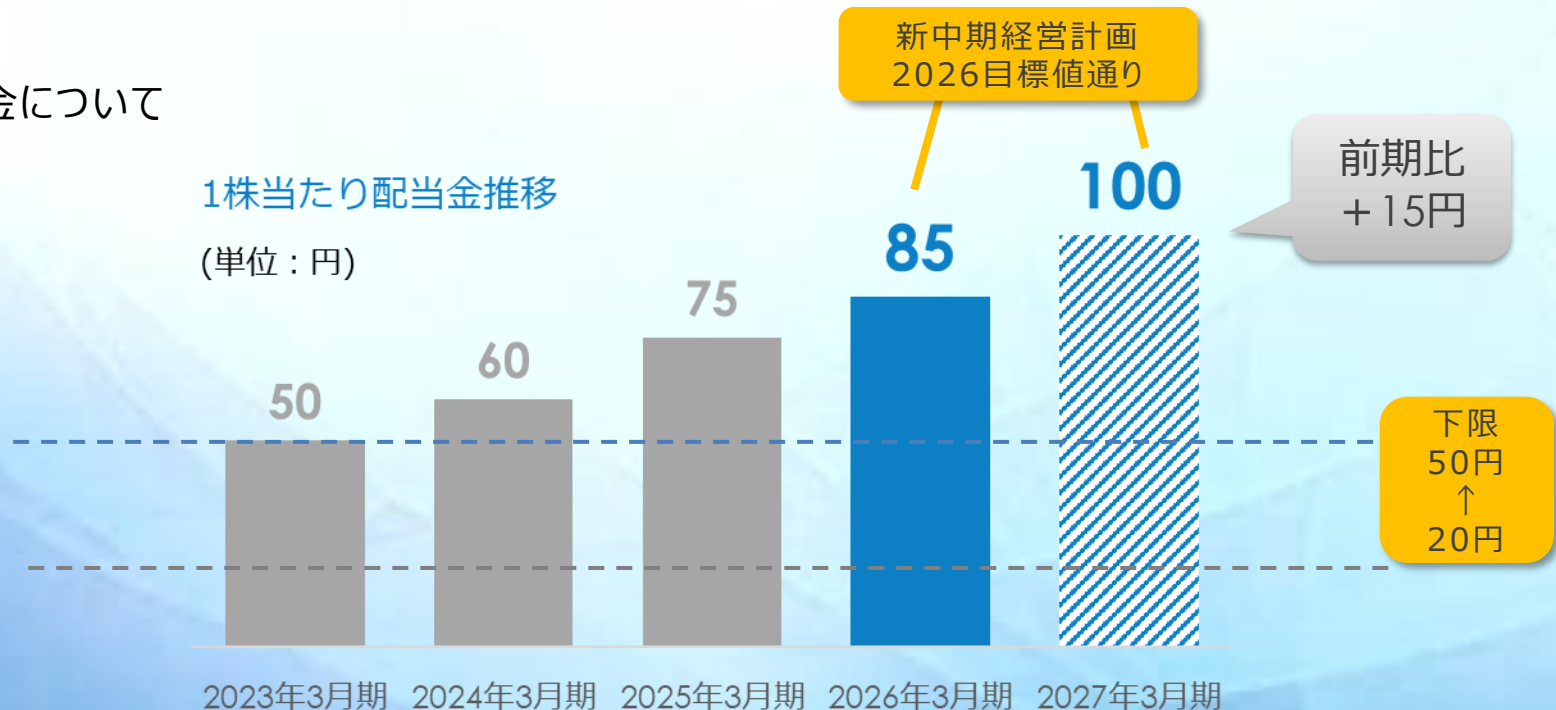
---

## 5. 株主還元

### 株主還元の考え方（配当政策の基本方針）

- 配当性向を**30%から40%**に、配当金下限を1株当たり**20円から50円**に引き上げる
- 1株当たり配当を実績は計画通り**85円**、計画を**100円**とする
- DOEも意識しつつ、今後も株主還元の充実を図っていく  
※ 急激な経営環境の変化により著しく業績が低迷するような場合を除く

### 配当金について



## 6. 事業の取り組みの進捗

---

# 6. 事業の取り組みの進捗

## 新中期経営計画2026 事業戦略の両輪

### 既存事業の強化

#### ソリューションビジネスによる拡販

- シミュレーション設計  
～実車評価技術/中国 R & D強化
- インド R & D機能設置

#### 強い成長地域への拡販

- インド・インドネシアでの技術・生産体制強化

#### ものづくり力変革と人材育成強化

- 革新的工法の構築／自動化／IoT導入
- グローバル人材育成の強化

### 成長事業・新事業の拡大

#### インダストリアル向け製品等の拡大

- |                    |                              |
|--------------------|------------------------------|
| ファクトリー<br>オートメーション | 精密シールの開発/量産体制の確立             |
| 新エネルギー             | 水素燃料用シール・<br>風力発電用着雪防止コートの開発 |
| 航空/宇宙              | 防振マウントの開発                    |

#### CASE市場への拡大

- |       |   |
|-------|---|
| バッテリー | <ul style="list-style-type: none"> <li>・進化し続けるEV製品用ホールドシートの開発・拡販</li> <li>・放熱ギャップフィラー・<br/>大型電池用防振製品の開発・拡販</li> </ul> |
|-------|---|

#### ライフサイエンス製品の拡大

- |      |                          |
|------|--------------------------|
| バイオ  | 細胞培養バッグ・培地、化粧品原料         |
| 細菌検査 | 薬剤耐性菌検査チップの<br>量産体制確立、拡販 |

## 6. 事業の取り組みの進捗

### 既存事業の強化 – ソリューションビジネスによる拡販（ワイパー）

#### 中国市場における事業拡大

##### テクニカルセンター機能の強化

開発設備を拡充し、短期化する製造サイクル競争に勝ち抜くため開発速度に対応

##### 中国ローカルメーカーへのさらなる拡販

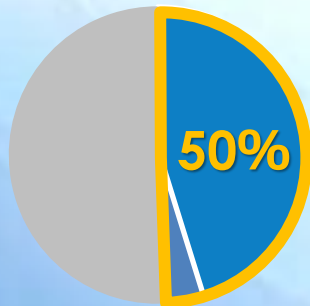
中国国内シェアを大きく拡大

中資系ワイパーシステムメーカーと協働し、欧州系メーカーへ拡販



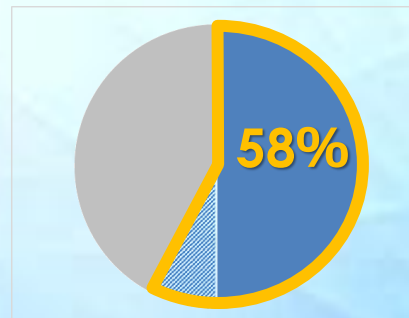
#### ワイパー世界シェア

2024年度

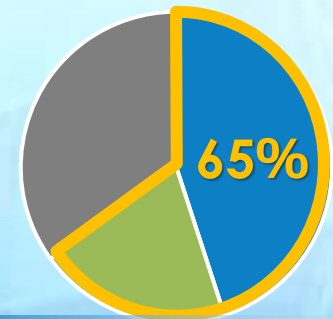


+ 8 ppt

2025年度



2030年度（目標）



グローバルでのソリューションビジネスを強化し、2030年にワイパー世界シェア65%を目指す

## 6. 事業の取り組みの進捗

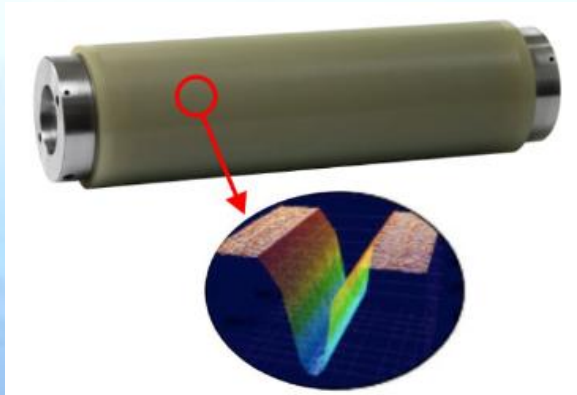
### 既存事業の強化 – ソリューションビジネスによる拡販（ウレタン）

半導体シリコンウェーハ製造用ワイヤーソーのウレタンローラー世界トップシェア  
 （防振セグメント）

一貫した生産体制によりお客様のトータルソリューションに対応  
 一貫生産で高品質・短納期を実現  
 お客様のローラー芯金のメンテナンスによる精度・耐久性向上

フコク独自開発技術で長寿命化と大物成型を実現

独自の配合による特殊ウレタンにより耐摩耗性と耐液性を向上させて長寿命化  
 独自の調合技術で一般的な材料では成形できなかった大物成型が可能



インゴットワイヤーソー用メインローラー



ワイヤーソー用ローラー、ウレタンプリー

半導体関連の売上の拡大、新規顧客の獲得、事業領域拡大を目指す

## 6. 事業の取り組みの進捗

### 既存事業の強化 – 強い成長地域への拡販（インド）

R&D強化

営業拠点強化

価格競争力強化

#### 日系メーカー以外への拡販

##### ダンパー

日系に加えて、韓国系との取引を開始

##### ワイパー

日系+インド系でシェア拡大継続

#### 自動車以外の市場開拓

建機・農機、鉄道、バッテリー製品  
市場開拓を推進中



ダンパーブリー

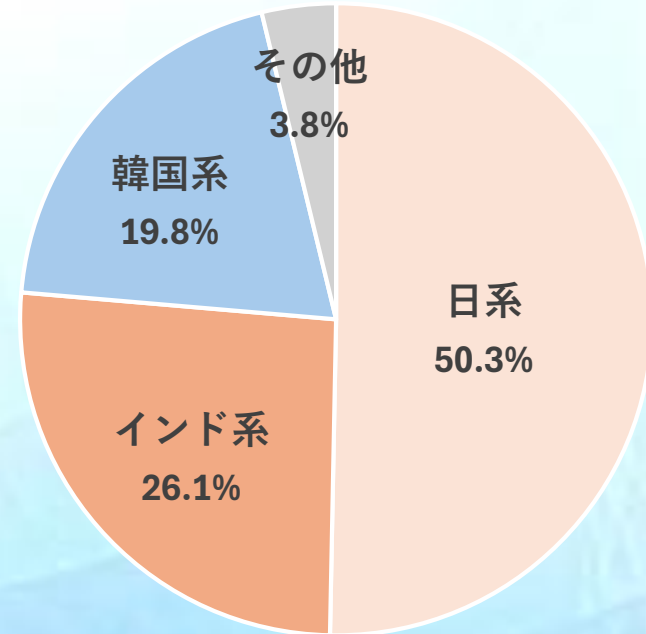


ワイパー



ビスカスマウント

インド市場における自動車販売  
カーメーカーシェア



出所：インド自動車工業会（SIAM）

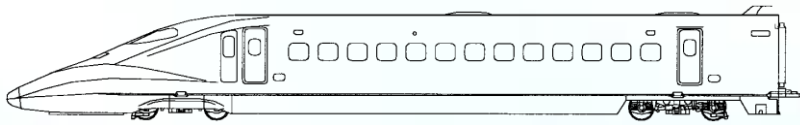
インド市場の成長を大きく上回る成長を持続

## 6. 事業の取り組みの進捗

### 既存事業の強化 – 強い成長地域への拡販（防振事業）

#### 鉄道の部品を着実に受注（日・中・インドネシア）

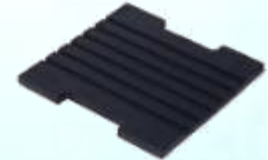
参入障壁の高い鉄道事業において、  
JR、インドネシア国営鉄道（INKA）より受注



一本リンク緩衝ゴム



（貨物向）軸ゴム



軌道パッド

#### 幅広い市場へ積極的に進出（建機・農機・船舶）

[建機・農機部品] 欧米市場へ販路拡大  
[船舶関連部品] 従来実績を元に新規受注獲得



ビスカスマウント



ビスカスダンパー



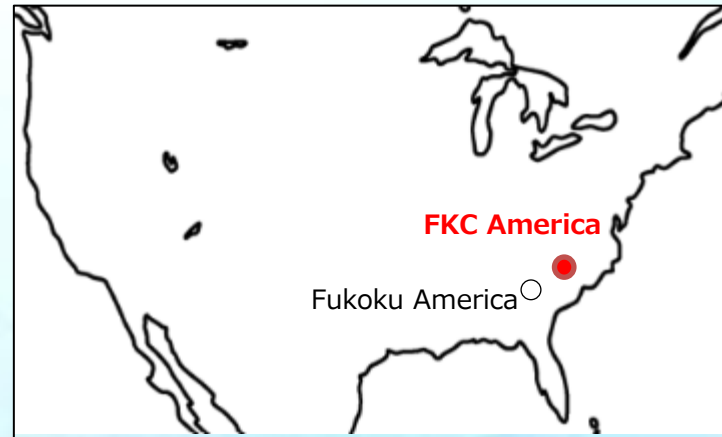
## 6. 事業の取り組みの進捗

### 既存事業の強化 – 強い成長地域への拡販（米国）

#### 韓国子会社と共同で新米国法人設立（米国バージニア州）

韓国系メーカー向け製品を足掛かりに、米国での拡販・新規市場開拓  
製品ラインナップ拡充、米国市場での事業基盤を強化

**FKC America, Inc.** (完成イメージ図)



ダンパープーリー



放熱ギャップフィラー

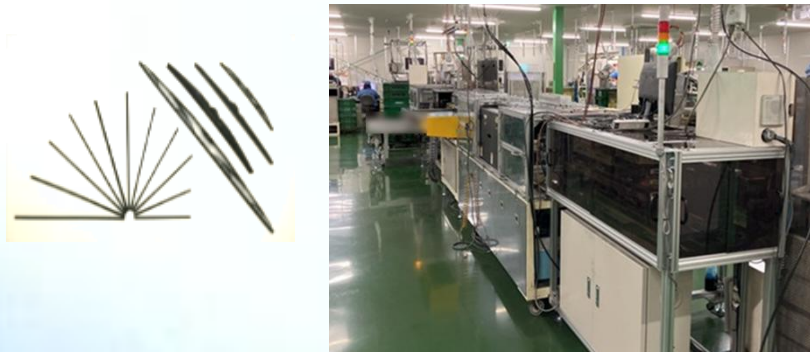
2027年1月工場稼働予定

# 6. 事業の取り組みの進捗

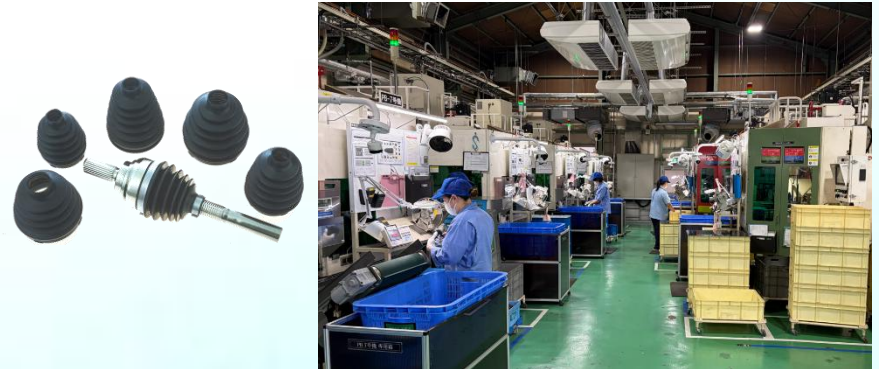
## 既存事業の強化 –モノづくり力変革

### 自動化・工法改善事例

機能品事業・ワイパーブレードラバー  
生産工程の自動化・省人化



機能品事業・樹脂ブーツ製品  
工法改善による生産性向上



### ロボット活用事例

防振事業  
ビスカスマウント  
製造工程の  
協働ロボット導入



ゴム練り工程  
配膳ロボット  
活用



工法改善・生産自動化・一貫生産など抜本的な変革により、コスト競争力を徹底強化

# 6. 事業の取り組みの進捗

## 成長事業・新事業の拡大ーバッテリー周辺製品

### バッテリー周辺製品への注力

バッテリーホールシート/ギャップフィラー

熱マネジメント

将来の電動化拡大を見据え**ラインアップ拡充**、**多様なニーズへの対応**  
AI普及に伴うデータセンター等を含む**各種の熱マネ課題**へも貢献していく

### バッテリーホールシートのラインアップ

温度域	800℃		600℃		400℃	
構成	3層積層 ● 断熱材+弾性体	単層 断熱材	3層積層 ● 断熱材+弾性体	単層 断熱材	2層積層 ● 断熱材+弾性体	単層 ● 弾性体

### 放熱ギャップフィラーのラインナップ

アプリケーション例	ギャップフィラー (2液硬化型)					グリース	シート
	離型タイプ	接着タイプ	電磁波吸収	離型タイプ	離型タイプ	高耐熱	低反力
<p>車載バッテリー ウォーターポンプ カメラ センサー 車載用OBC HEV駆動モータ DC-DCコンバータ 次世代インバータ ECU キャパシタ データセンター用CPU/GPU</p>							<p>車載電池・定置型蓄電池バッテリー データセンター用CPU/GPU</p>

## 6. 事業の取り組みの進捗

### 成長事業・新事業の拡大－宇宙事業開発

次世代技術開発で、宇宙分野の競争力強化へ

宇宙防振

JAXA 宇宙戦略事業基金に採択

採用テーマ「広温度域で使用可能な振動減衰機構」の開発

高G対応非線形ゴムアイソレータ

(適用範囲：-40℃～110℃)



スペースシリコンラバー

商標登録第6956327号  
当社独自開発の  
宇宙空間適応シリコンゴム

極低温対応ワイヤアイソレータ

(適用範囲：-170℃～110℃)



■ 宇宙向け防振ゴム製品の実績を基盤に開発

■ 人工衛星等の打上げ環境から軌道上まで搭載物を一貫保護

■ 極低温・高放射線の極限環境下においても機能

# 6. 事業の取り組みの進捗

## 成長事業・新事業の拡大ーライフサイエンス

### 新製品発売で製品ラインナップ拡大

細胞培養バッグ・培地

新製品「活性化NK細胞大量培養キット」

細胞別培地、用途別バッグの開発強化

世界最大市場の中国で生産現地化推進

細胞別培地



用途別バッグ



活性化NK細胞大量培養キット

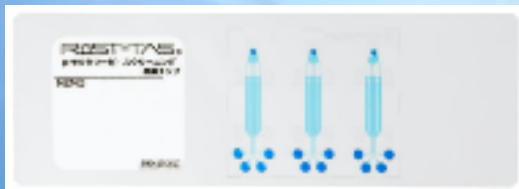


細菌検査

新製品「RaST-TAS腸内細菌目細菌用試薬チップ」

早期の保険適用取得申請・売上拡大・医療現場への本格展開を目指す

β-ラクタマーゼ・スクリーニング試薬チップ



RaST-TAS腸内細菌目細菌用試薬チップ

NEW!

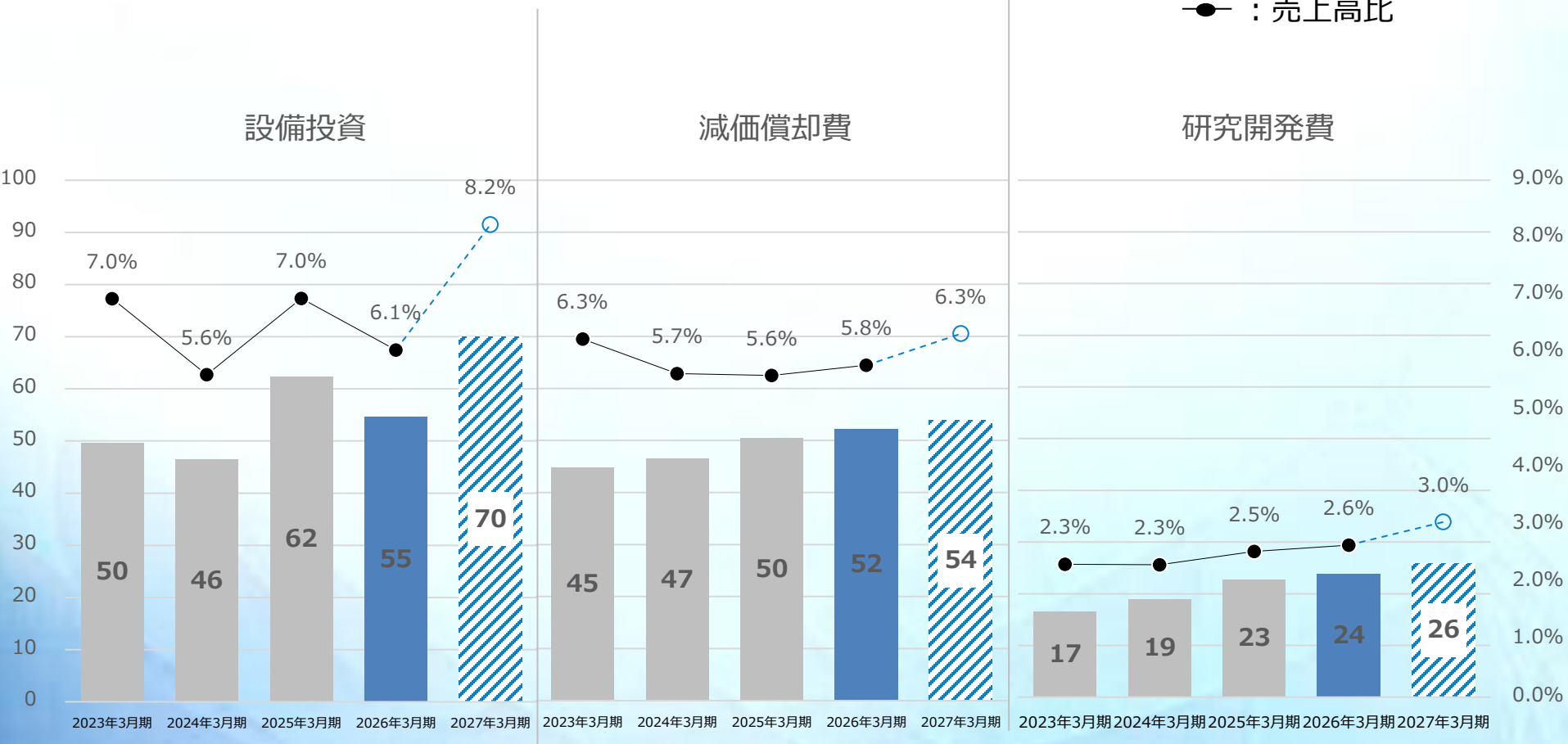


# 6. 事業の取り組みの進捗

## 設備投資、減価償却費、研究開発費

単位：億円

●：売上高比



27年3月期は設備投資と研究開発費を増やし、次の成長に向けて基盤強化

## 7. 次期中期経営計画に向けて

---

## 7. 次期中期経営計画に向けて

### 現中期経営計画の最終年度目標の見直し

- ・ 来期の通期業績目標は、「新中期経営計画2026」の目標値と大幅に乖離
- ・ 事業環境は大きく変化し、内部努力だけでは対処しきれない状況
- ・ 現在の延長線上での成長には一定の見直しが必要

地政学リスクの高まり

米国関税措置

為替変動

物価高・原材料費高

BEV 化の減速

### ・ 現中期経営計画の数値目標は一旦取り下げ

「新中期経営計画2026」の最終年度目標値（公表時）及び2027年3月期通期連結業績予想

	目標値（公表時） （2023年6月）	通期連結業績予想 （2026年5月）	差
売上高	1,200億円	850億円	△350億円
営業利益率	8.0%	3.9%	△4.1%
ROE	12.0%	6.0%	△6.0%

## 7. 次期中期経営計画に向けて

### 次の成長に向けて

持続的成長のための強固な事業基盤構築を最優先とし、事業運営を強化。  
2026年度を「**変革フェーズ**」と位置づけ、経営が強くコミットし変革に取り組む。

稼ぐ力の更なる向上	赤字・不採算製品の削減、原価低減の推進
市場戦略強化	当社の製品・市場の強みが活かせる市場への取組の強化
モノづくり力強化	開発・生産・製造プロセスを改革、将来型工法を実現
M&Aも活用した 新規事業の立ち上げ	M&Aも活用し新事業を創出

2026年度の変革を踏まえ、2027年度を初年度とする次期中期経営計画において、**稼ぐ力の強化を軸に収益性・資本効率を高め、持続的成長と企業価値向上を目指す。**

長期的には、当社独自のコア技術で高付加価値商品やソリューションを提供することで、サステナブルな社会の実現に貢献できる“心から愛される企業”を目指す。





# Yes, We Do!

## 注意事項

- ◆ 本資料には、株式会社フコクおよびそのグループ会社の戦略、経営計画等の将来予測に関する記述を含んでいます。本資料における記述のうち、過去又は現在の事実に関するもの以外は、将来予測に関する記述に該当します。これら将来予測に関する記述は、現時点において入手可能な情報に鑑み株式会社フコクおよびそのグループの仮定および判断に基づくものであり、その性質上、これらにはリスクや不確実性を内在しております。従って、当社を取り巻く事業環境、将来の業績、経営結果等と異なる結果となる可能性があることをご承知おきください。
- ◆ 本資料に記載されている将来予測に関する記述は、本資料作成日現時点のものであり、当社はそれ以降に判明した新たな情報や将来の事象により、本資料に掲載された情報を最新のものに変更する義務を負うものではありません。

2026年5月26日 株式会社フコク